

平成25年度研究評議会で委員から寄せられた主要な意見・要望とそれに対する対応方針

	項目	研究評議会における指摘事項	対応方針
1	機関の運営	個々の研究は優れているので、それらのつながりを示し、木材利用の出口を広げるようにしてほしい。	個々の研究を俯瞰的な視点から把握しつつ総合的な研究をすすめることが実際に現場で役立つ成果につながると考えており、国産材の利用拡大という出口に向け、川上から川下に至る一体的な研究を進めて参りたい。
2	人材の育成	研究所にとって最も重要なのは人材なので、若手研究者の確保や、人材育成が必要である。特に、グローバル化の時代なので、在外研究や留学等の機会も必要ではないか。	研究所の将来を担う若手研究者の採用は最重要の課題であり、様々な制度の活用を図って参りたい。また、研究の国際的な水準の確保のため、海外の研究機関との連携を図るとともに、研究者の派遣および受け入れに取り組んで参りたい。
3	研究課題の設定	再造林コストの低減のために、一貫作業システムの研究を進めてほしい。	一貫作業システムの有効性の検証については、共同研究で林地残材のバイオマス利用とあわせ研究を進めている。交付金プロ、農食研事業でも、東北、関東、関西でコンテナ苗を利用した一貫作業システムの研究を進めて参りたい。
4	研究課題の設定	国産の広葉樹を育てていくような研究をしてほしい。	これまでの広葉樹研究の知見は不足しているので、今後、広葉樹資源の有効な活用に向け、国産広葉樹の育成技術研究を進めて参りたい。
5	研究課題の設定	木材の持っている快適性についての科学的な証明に取り組んでほしい。	木材の快適性に関する研究については、現在、科研費による課題で対応しているところであるが、今後は、ヒトの生理応答によるエビデンス(科学的根拠)をさらに蓄積していく研究を推進して参りたい。
6	研究課題の設定	集成材に限らず、大規模、大断面の木材の利用の開発を進め、林家の収益を増すような用材としての利用を促進する研究も進めてほしい。	木材の最大の需要先である建築用途については、性能の安定した製品を供給していく必要がある。大断面製材品の加工利用技術については、交付金プロジェクト(大径材利用、H23-25)で対応している。今後は、大径材から、より需要の多い一般建築用材の加工・利用技術の開発研究を推進して参りたい。
7	研究課題の設定	国土保全などの森林の公益的機能に関するテーマを課題化し、プロジェクト等を考えてほしい。その際、公的試験研究機関との連携も考えながら進めてほしい。	公益的機能は森林の重要な役割で川下の住民にも関心が高い。国土強靱化施策の関連のプロジェクト等には公的研究機関による現場の調査も重要と認識しており、連携しつつ推進して参りたい。